

広告にみた略伝

明治39年（1906）以前は、歯科医業について、その広告には規制なく自由であった。

この時期における歯科医人の広告から、その人の一部伝記を見出すことができる（山田平太記）

高山 紀斎

余明治5年ノ春ヲ以テ米国ニ航遊シ、明治11年3月帰朝シ（明治11年4月2日）

この春を新年正月とするか、季節の春に採るか疑義あるが、1月である。

著名ナル口科医ニ就テ其業ヲ講習シ、明治7年ニ至テ卒業証書ヲ受ク（同年4月22日）

教育機関の卒業証書でなく、師のヴンデンバークの修業証明書とする。東京医療案内（明治43年）には、苦学7年業成りて米国政府より歯科医術開業免状を授けられる。また、工藤鉄男（明治34年）は、ヴンデンバーク氏に就き歯科医学を修め、苦学7年米国歯科医の免状を得て、と誤記している。

生義米国ニ於テ歯科医術を卒業シ、我政府ノ免状ヲ受ケ左ノ場所ニ営業ス（明治12年1月7日）

帰国後、明治11年（1878）4月東京で受験合格した。

余多年米国ニ於テ歯医ヲ実地ニ経験シ、今般帰リテ業ヲ左ノ場所ニ開ク（明治11年4月22日）

これで明治11年4月に開業し、免状下付前になる。試験及第証書を附与されると開業した実例は他にもある。

伊沢 道盛

歯科医事衛生史前巻の12年1月10日から、津田仙方に治療所を開きの12年は誤植で、

今般親友津田仙君ノ肆舗ニ本月10日ヨリ出張（明治11年1月7日）

のように、11年である。津田店は縄売所、14年（1881）2月3日から出張所を元数寄屋町に移した。

生義当2月3日ヨリ左ノ場所ニ日々出張（明治14年2月1日）

この出張所をやめたのは明治19年（1886）末で、

数寄屋川岸ノ出張所を止メ、麻布鳥居坂4番地ノ本宅ニオキ（明治20年1月11日）

以後本宅で診療した。

伊沢 信平

デンタクエ・メヂチネ・ドクトリス 信沢信平

小生明治21年米国ハーバート大学ニ入り歯科学術ノ全科ヲ修メ、更ニドイツ国伯林大学ニ入学歯科病理ヲ研究シ、猶英京ロンドン歯科病院ニ到リ英国式ヲ検シ帰朝（明治25年4月16日）

帰国後、京橋区南金六町15番地河岸で開業、この他に7月30日ヲ以テ新橋出張所ヲ閉ヂ（明治29年8月1日）

で新橋出張所のあったことは分明するが、その開設月日は不明、明治33年（1900）3月23日から、同43年（1910）9月7日までの広告によると、

伊沢信平歯科治術所

午前 麻布区鳥居坂4番地

午後 京橋区南鍋町1丁目7番地

で、父道盛死去後は、本宅と出張所で診療し、出張所の診療時間は2時から4時まで、毎木曜日は休診した。

井野 春毅

内外科医の免状を有し、小幡英之助の門に入り歯科医術を修め、明治14年（1881）歯科開業した。

歯科診療及び洋方義歯

歯科医 井野

今川小路2丁目4番番地（明治15年12月6日）

明治17年（1884）手術場を新築移転、

先般来手術場建築中之処落成ニ付此段辱知諸君ニ報ス

神田区今川小路1丁目5番地（明治17年12月23日）
明治22年（1889）からロシアを巡回治療して、同23年（1890）末に帰国。

拙者儀昨春以来魯国地方有志者ノ招待ニ応ジ同国各府県下患者ヲ治療回歴致シ本日帰朝仕候（明治23年12月13日）

今川小路の住居を田中熊三郎に譲って、同区淡路町に転じたのは明治27年（1894）夏であろう。

春毅儀先般来帰省中の所帰宅致治療従事仕候

井野歯療院 神田淡路町（明治27年9月27日）

と住所が変更し、入歯師が用いた歯療院を名称とし、他に石原歯療院（石原金作、神田区）と東京歯療院（長谷川国太郎、牛込区）がある。

高木五三郎

明治11年（1878）に豊前から上京、同郷の小幡英之助

に入門、同14年(1881)東京開業試験に同格、同15年(1882)3月開業。

私儀今般左ノ所ニ治療致し候間江湖の諸君続々御来臨奉希候

横浜弁天通り2丁目丸善薬店

小幡英之助門人 歯科医 高木五三郎

(明治15年4月14日)

(注) 歯科医事衛生史には丸善書店の二階とある。

明治20年(1887)に京橋に移り、同23年(1890)5月函館に移った。その前年北海道に出張治療している。

小生儀暑中以来北海道地方へ出張致居候処今般帰京従前之通り治療致候間此段謹告候

東京京橋区弓町21番地

歯科医士 高木五三郎(明治22年11月7日)

佐藤 重

伊沢道盛に入門、明治11年(1878)頃に長谷川保の門に転じ、開業は明治11年(1878)11月1日で、歯科開業試験は受けないで鑑札営業で一生を終わった。鑑札は第186号、明治18年(1885)10月31日下付。

明治16年(1883)まで蠣殻町へ出張診療し、同年に日本橋区小網町で開業

生義是迄蠣殻町1丁目3番地へ出張致候処都合ニ依リ小網町4丁目2番地へ転居仕候因辱知之諸君へ報告ス

歯医長谷川保門弟 佐藤 重(明治16年10月4日)

浜町、田町を経て明治28年(1895)弥左衛門町へ移った。

小生儀今般都合ニヨリ赤坂区赤坂田町7丁目4番地榎坂下へ転居仕候

転居 京橋区弥左門町7番地(明治28年12月18日)

榎本 積一

明治22年(1889)歯科医術開業試験に合格、同年11月29日免状下付、同23年(1890)麻布区で開業した。

治療所 東京麻布区市兵衛町2丁目84

歯科専門医 榎本積一(明治27年4月24日)

明治29年(1896)治療所を新築転居し、

今般治療所新築落成ニ付左ニ移転

芝区今入町11番地(虎ノ門川岸通)

榎本積一歯科診療所(明治29年3月5日)

明治43年(1910)神田区駿河台に移転した。

中村 正修

外国歯科医学校卒業の資格によって、明治24年(1891)1月22日免状を下付された。

生義米国費府歯科大学病院ニテ治療ニ従事致居候処今般帰朝致シ京橋区山下町23番地ニ於テ歯科一般ノ治療ニ応ズ

ドクトル・ラブ・デンタルサーゼリー

米国歯科医学士 中村正修(明治24年2月14日)

生義自今専ラ小石川同人社邸内自宅ニ於テ従前ノ通り歯科一般ノ治療ニ応ズ

米国歯科医学士 中村正修

小石川区江戸川町18番地(明治24年10月22日)

大原等太郎

外国歯科医学校卒業で明治35年(1903)2月3日免状下付された。

歯科医術開業 昨年末帰朝後郷里ニ滞留シ候処今回出京左ノ処ニ開業致候ニ付此段辱知諸君ニ謹告ス

京橋区日吉町7番地

歯科専門米国医学士 大原等太郎(明治35年4月22日)

この広告から明治34年(1901)末に帰国したことがわかる。

曾根 竜蔵

明治31年(1897)アメリカから帰国、外国歯科医学校卒業で、同年12月26日免状を下付され32年(1898)開業

歯科専門 多年米国ニ遊学致居候処今般帰朝左ノ処ニ於テ歯科一般ノ治療ニ従事ス

ドクトル 曾根竜蔵

赤坂区溜池町3番地(明治32年6月3日)

ドクトル曾根竜蔵歯科治療所

赤坂区溜池町3番地(明治32年8月29日)

一井 正典

明治18年(1885)渡米、同27年(1894)帰国、

歯科治療 生義米国費府歯科大学ヲ卒業シ彼地ニ於テ開業罷在候処今般帰朝左ノ処ニ開業シ歯科一般治療ノ依頼ニ応ズ

ドクトル・ラブ・デンタルサーゼリー

一井 正典

神田区南神保町17番地(明治28年3月1日)